

たいと考え、本主題を設定した。

二、研究内容

(一) 指導内容の重点化をどう図るか。

(二) 指導過程をどう工夫するか。

三、研究の概要

(一) 指導内容の重点化を図るために、単元の指導計画の作成を工夫する。

次の手順により、本時は、児童に何を身につけさせるか、その重点を明らかにする。

(資料1)

(1) 学習指導要領の内容を基に、教科書の内容を検討し、単元の指導のしくみをおさえる。①

(2) 本単元の指導内容の前提となる基礎的事項を明らかにする。

(3) 本単元の指導について目標分析をする。

(4) 発展を明らかにする。

資料1 指導内容の重点化を図る 算数科「立体」指導計画〈第6学年〉

① 指導内容のしくみ 基本的な柱体及びすい体をできるようにする	② 基礎的事項 ○直方体や立方体を辺、面、頂点などの数や面の形、面や辺の平行、垂直関係に着目して弁別することができる。 ○直方体や立方体の見取図や展開図を書くことができる。 ○平面図形との関連を知り、空間にある図形としてその特徴をとらえることができる。	③ 目標分析				⑤ 単元構成 いろいろな立体の仲間分け 1/14 角柱について調べる 概念 展開図の考察 性質 立体の構成 高さ 12/14	
		知識・理解	技能	数学的な考え方	関心・態度		
角柱・円柱の概念と性質 ○用語「立体」「角柱」「底面」「側面」「円柱」 ○角柱・円柱の概念	次時	指導目標	知識・理解	技能	数学的な考え方	関心・態度	
		① 観点を決めて立体を分類することができるようにさせる。 ② 角柱の性質や特徴を調べさせる	○立体の表面は、平面や曲面で囲まれていることがわかる。 ⑥	○側面の形はどれも長方形で底面に垂直	○角柱の特徴をつかみその見取図を	○直方体や立方体は四角柱の特別な形	○目的にあった観点で立体を分類しようとする。 ○具体物の中からいろいろな角柱を見つ
まとめ	14	まとめをさせる。	○事後テストをし、学習成果の評価をする。フィードバックをし、定着をはかる。				13/14 まとめ
④ 発展		○角柱や円柱は、多角形や円をそれと垂直な方向に平行移動してできた立体ととらえることができる。 ○円柱、円すいを回転体としてとらえることができる。 ○多面体、正多面体の概念を理解し、多面体の頂点、辺、および面の間の関係をとらえることができる。				14/14 評価・テスト	

資料2 学ぶ力を育てるための授業の基本過程

段階	育てたい学ぶ力	本校教育目標の指標
課題をつかむ	○興味、関心の強さ ○観察力をはたらかせて、事実をとらえる力 ○事実と事実を関係づけたり、方向づけたりする力 ○問題を発見できる力 ○問題解決への意欲 ○未知のものに挑む探究心	① 学習のめあてをつかみ、自分から進んで学ぶ。(自主性)
見通しをもつ	○既習事項、既有経験を活用できる力 ○解決法を見通す直感力 ○解決法を考える力 ○解決のためによい方法を選択する判断力	③ 新しい考え、方法など積極的に学習に生かす。(創意工夫)
解決する	○未知のものに挑む探究心 ○解決に熱中する集中力 ○目標を達成しようとする持続力 ○学習内容を習得しようとする理解力 ○学習したことを表現する表現力	② わからないことをそのままにせずわかるように努力(探究心) ④ 自他の考えを比べてよりよい方法を判断する。(判断力)
まとめる	○学び方を獲得する力 ○学習内容の習得を確かめる力 ○学習事項を活用できる力 ○次の未知を開こうとする意志力	

(5) 学級の児童の認識過程を想定し、単元構成を工夫する。⑤

(6) 前提テスト及び事前テストから一人一人の習得状況・観察等から学習状況を把握し、実態を基に時限ごとに指導の重点に◎印を付して明らかにする。⑥

(二) 指導過程を工夫する。

(1) 学ぶ力を育てるために授業の基本過程を明らかにする。(資料2)

(2) 学ぶ力を育てるための授業の基本過程に基づき授業展開のモデルを組む。(資料3)

(3) 展開のモデルによる授業の実際「課題をつかむ」段階

学習への興味関心を引きつけ、意欲を高めて、いかに学習へ引き込ませるかがポイント、問題場面の設定がその鍵を握る。

課題をとらえる訓練
○これまでと同じところや違うところを見つける。
○ふしぎなところを見つける。
○困ったことを見つける。
○知りたいことを見つける。

問題場面設定の例
三年(円) 課題「円の中心を見つけるには、どうするか」

おもちゃの自動車を走らせる。自動車が走らないのは、車軸を指す位置に問題があることに一目で気づき、円の中心を見つけて走れる自動車にしようとして学習が展開する。

② 「見通しをもつ」段階